

ふくい林業カレッジ シラバス



シラバス目次

ふくい林業カレッジ概要	1P
取得できる資格一覧	2P
ふくい林業カレッジシラバス	3P
◆林業の基礎.....	4P
◆福井県林業の概要.....	5P
◆森林生態.....	6P
◆森林経営.....	7P
◆森林整備.....	8P
◆安全対策.....	9P
◆林産.....	10P
◆建築.....	11P
◆森林保護.....	12P
◆公有林.....	13P
◆緑化.....	14P
◆特用林産物.....	15P
◆ビジネスマナー.....	16P
◆現場技術取得.....	17P
◆インターンシップ.....	18P
◆資格取得.....	19P
◆オリエンテーション等.....	20P
成績の評価	21P

ふくい林業カレッジ 概要

1 研修方針

新卒者など若い世代を中心に、全国から就業希望者を募り、林業に関する基礎知識や林業への就業に必要な資格の取得、現場実習などの研修を行い、林業の現場で活躍できる人材を育成します。

2 研修期間

4月中旬から3月中旬までの約1年間 [約1,300時間 200日程度]

3 研修時間

9:00～16:00 [原則 土・日・祝日は休講]

※上記の時間は研修内容により変更になることがあります。

4 定員

長期コース 8名

5 受講料

無料

6 研修場所

《座学》

福井県総合グリーンセンター 林業研修センター 外

《現地実習》

福井県内の山林

7 研修修了生

平成28年度 (1期生)	平成29年度 (2期生)	平成30年度 (3期生)	令和元年度 (4期生)	令和2年度 (5期生)	令和3年度 (6期生)	令和4年度 (7期生)	令和4年度 (7期生)	令和5年度 (8期生)
9名	6名	6名	6名	長期4名 短期5名	長期5名 短期4名	長期8名 短期5名	長期8名 短期5名	長期1名 短期2名

取得できる資格等一覧

- ◆刈払機取扱い作業者に対する安全衛生教育
- ◆伐木等の業務に係る特別教育
- ◆車両系建設機械運転技能講習
- ◆玉掛け技能講習
- ◆走行集材機械の運転業務に係る特別教育
- ◆簡易架線集材装置等の運転の業務に係る特別教育
- ◆伐木等機械の運転の業務に係る特別教育
- ◆小型移動式クレーン運転技能講習
- ◆不整地運搬車運転技能講習
- ◆機械集材装置の運転業務に係る特別教育
- ◆荷役運搬機械等によるはい作業従事者に対する安全教育
- ◆狩猟免許試験準備講習
- ◆フォークリフト運転技能講習



ふくい林業カレッジシラバス

1 シラバスについて

ふくい林業カレッジでは、林業の現場で活躍する人材を育成するため、外部有識者の評価を受けた本シラバス(授業計画)の内容に沿った研修を実施します。

なお、本シラバスで定める授業内容は目安であり、授業の進捗状況や理解度、講師の状況等により必要に応じ適宜変更する場合があります。

2 科目一覧

科目名	時間数(h)		
	座学	実習	計
林業の基礎	18	0	18
福井県林業の概要	9	0	9
森林生態	18	0	18
森林経営	21	0	21
森林整備	52	0	52
安全対策	30	59	89
林産	12	15	27
建築	3	6	9
森林保護	9	0	9
公有林	6	0	6
緑化	3	6	9
特用林産物	6	6	12
ビジネスマナー	6	0	6
現場技術習得	0	252	252
インターンシップ	3	552	555
資格取得	-	-	186
オリエンテーション等	27	0	27
計	223	896	1305



ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
林業の基礎	学識経験者 他県林業大学校講師 外	18			
背景と目的	森林の役割、林業の基本的な施業手法や仕事内容など林業の基礎を学ぶことで林業就業の意義や必要性を理解する。				
内容	学識経験者による森林・林業の概論や現状、歴史に関する講義を実施する。				
到達目標	森林の役割、基本的な林業の流れやそれともなう仕事内容および森林・林業の現状や歴史など林業の基礎について理解する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
森林・林業概論	森林の役割、林業の基本的な施業手法や仕事内容などを学ぶ	10	0	10	2
森林・林業の現状および歴史	森林・林業の現状や歴史について学ぶ	5	0	5	1
他県林業の状況	他県林業大学校の講師等から県外の林業の状況を学ぶ	3	0	3	1
計		18	0	18	4
評価の基準と方法	<p>出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。</p> <p>出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと</p> <p>研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>基礎知識…習熟度を確認するための筆記試験を実施する。</p> <p>なお、筆記試験に不合格となった場合は、再度試験を行い、確認するものとする。</p>				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		0			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
福井県林業の概要	福井県職員	9			
背景と目的	福井県の林業の現状や歴史、県が進める林業関係の各施策を学ぶことで福井県における森林・林業行政について理解する。				
内容	県職員により福井県における林業の概要や県の林業関係の各施策に関する講義を実施する。				
到達目標	福井県における林業の概要や県の林業関係の各施策について理解する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
福井県林業の現状	福井県の林業の現状や歴史について学ぶ	6	0	6	1
福井県林業の施策	福井県が進めている林業関係各施策について学ぶ	3	0	3	1
計		9	0	9	2
評価の基準と方法	<p>出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。</p> <p>出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと</p> <p>研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること</p>				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修				0
	労働安全(造林・育林)				0
	労働安全(伐木・造材)				0
	労働安全(最新機器の活用)				0
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修				0
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修					0
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修					0
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得				0
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得				0
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得				0

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
森林生態	学識経験者	18			
背景と目的	森林生態学をはじめ樹木学、植物生理学、土壌学などの幅広い知見を学ぶことで学術的な視点から施業の意義や森林の仕組みを理解し、現場における施業手法に活かす。				
内容	学識経験者による地球環境と森林群系との関係およびそれぞれの環境での森林の生理・生態の成り立ちや森林の物質生産、循環の仕組みなどの基礎的な森林生態学をはじめそれに関連する土壌学などの幅広い講義を実施する。 その他、山で目にする樹木に加え、普段目にする身近な樹木に関する講義も行い、森林や樹木への興味と関心を深める。				
到達目標	森林生態学を学ぶことで異なる自然環境下での樹木の生理・生態の成り立ち、物質生産および循環の仕組みについて正確に理解し、最良の森林管理や利用法について考える力を身に付ける。 また、加えて樹木学、植物生理学、土壌学などの基礎知識を身に付ける。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
森林生態等	異なる自然環境下での樹木の生理・生態の成り立ちや森林の物質生産、循環の仕組みなどの森林生理・生態学やそれに関連した樹木や土壌についても学ぶ	18	0	18	3
計		18	0	18	3
評価の基準と方法	出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。 出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと 研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること 習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修				0
	労働安全(造林・育林)				0
	労働安全(伐木・造材)				0
	労働安全(最新機器の活用)				0
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修				0
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修					0
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修					0
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得				0
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得				0
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得				0

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
森林経営	林業経営者 森林施業プランナー 学識経験者 福井県職員 ふくい林業カレッジ職員 外	21			
背景と目的	森林経営を行うために必要な関係法令や計画制度、コスト分析の手法等に関する知識を習得する。 また、計画作成に必要な森林資源の把握や森林施業の低コスト化を図るため、ICT技術や施業地集約化の手法についても理解を深める。				
内容	森林法などの関係法令や計画制度、森林資源の把握のためのICT技術、施業地集約化やコスト分析に関する講義を実施する。 また、全国トップランナーの林業経営の手法を学ぶため県外先進地視察を実施する。				
到達目標	関係法令、計画制度、ICT技術、施業地集約化やコスト分析の手法について理解する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
関係法令、計画制度	関係法令やそれに基づく計画制度、保安林などの制限林について学ぶ	3	0	3	1
林業におけるICT技術の活用	スマート林業の推進を図るためドローンやGISなどの技術を用いた森林資源の調査手法や活用事例を学ぶ	9	0	9	3
先進地視察	県外の林業先進地への視察を通じ、林業経営の手法を学ぶ	6	0	6	2
森林施業の集約化	施業地集約化の手法やコスト分析の方法について学ぶ	3	0	3	1
計		21	0	21	7
評価の基準と方法	出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。 出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと 研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること 習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修				0
	労働安全(造林・育林)				0
	労働安全(伐木・造材)				0
	労働安全(最新機器の活用)				0
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修				0
	コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修				0
	UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修				9
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得				0
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得				0
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得				0

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
森林整備	学識経験者 林業実践者 福井県職員 ふくい林業カレッジ職員 外	52			
背景と目的	森林整備を行う上で必要な測量、読図および育苗から素材生産までの各森林施業に関する知識を身に付ける。 また、雪害対策など福井県の気候等の条件に応じた育林技術についても習得する。				
内容	学識経験者や林業実践者による測量、読図および育苗から素材生産までの各森林施業に関する講義を実施する。				
到達目標	測量および読図および林業の各施業の役割や必要性について理解する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
育苗・造林	県内苗木生産の現状や早生樹の試験研究状況などについて学ぶ	4	0	4	2
	コンテナ苗、低密度植栽および一貫作業システムなど効率的に造林を行うための手法を学ぶ	6	0	6	1
育林	本県における施業技術や目標林型とそれに応じた施業体系について学ぶ	9	0	9	2
間伐・素材生産	間伐時の選木方法や効率的に素材生産を行うための作業システムについて学ぶ	6	0	6	2
路網	効率的に素材生産を行うための路網の配置や森林作業道開設の方法について学ぶ	9	0	9	2
測量・読図	測量方法や地形図の読み方について学ぶ	12	0	12	2
先進地視察	県外の林業先進地への視察を通じ、森林整備の手法を学ぶ	6	0	6	2
計		52	0	52	13
評価の基準と方法	<p>出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。</p> <p>出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと</p> <p>研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること</p>				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		6			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
安全対策	安全管理指導専門家 林災防講師 林業実践者 救急隊員 機械メーカー 福井県職員 外	89			
背景と目的	労働災害の発生率が他産業に比べて高い林業で安全に作業を行うための心構えや知識を習得することで研修中および就業後の労働災害防止を図る。 また、現場実習前にはKY活動などを毎回行うことで安全意識の定着を図る。				
内容	講師による労働安全の基礎的な知識や災害事例などの講義を実施する。また、振動障害や誤作動を防止するための目立てやメンテナンスの実習、現地実習前のKY活動などの実施する。				
到達目標	労働安全に関する意識定着および安全作業技術やそのための林業機械の取扱い技術の習得				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
救命救急講習	心肺蘇生法やAEDの取扱いなどの救命救急講習	3	0	3	1
ハチ抗体検査	現場研修の実施に向けハチ抗体検査を実施	3	0	3	1
伐倒時の安全対策	かかり木処理などの伐倒時の安全対策について学ぶ	6	0	6	1
機械目立て・メンテナンス	チェーンソーの目立てやメンテナンス方法について学ぶ	3	15	18	3
	高性能林業機械の構造・機能や保守・部品交換等の点検・メンテナンス方法について学ぶ	3	3	6	1
林業機械の安全対策	林業機械の操作に必要な資格や労働災害事例について学ぶ	3	3	6	4
	高性能林業機械操作時の安全対策や複数の林業機械による作業システムにおける安全対策について学ぶ	6	0	6	1
現場での安全対策(造林・育林)	造林・育林に関する現場実習前にKY活動や作業時の危険箇所について確認を行う。	0	8	8	8
現場での安全対策(伐木・造材)	伐木・造材に関する現場実習前にKY活動や作業時の危険箇所について確認を行う。	0	24	24	24
危険生物に対する講習	現場で遭遇するハチやヘビ等の危険生物について学ぶ	3	0	3	1
最新装置を活用した労働安全研修	VR伐倒シミュレーター等を活用して伐倒時に労働安全について学ぶ	0	6	6	1
計		30	59	89	46
評価の基準と方法	<p>出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。</p> <p>出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと</p> <p>研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること</p>				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	9			
	労働安全(造林・育林)	8			
	労働安全(伐木・造材)	54			
	労働安全(最新機器の活用)	6			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		0			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	6			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	3			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	3			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
林産	木材市場職員 川下関係者 福井県職員 外	27			
背景と目的	素材生産時に原木の価値に応じた造材や仕分けを適切に行うため、需要先が求める規格や品質などを把握する。				
内容	木材市場や製材所、木質バイオマス関連施設等の県内需要先での見学、研修を実施する。				
到達目標	地域の需要先が求める規格や品質を把握し、A材からC材までの仕分けがイメージできるようになる。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
木材市場見学	木材市場を見学し、木材需要について学ぶ	0	3	3	1
木材流通および需要	原木の規格に応じた木材需要や用途、流通体制について学ぶ	6	0	6	2
製材所等見学	製材所やプレカット工場などを見学し、原木の需要先が求める規格や品質について学ぶ	0	9	9	2
バイオマス関連施設見学	バイオマス関連施設などを見学し、原木の需要先が求める規格について学ぶ	0	3	3	1
木材関係試験研究	木材に関する県の試験研究の内容について学ぶ	6	0	6	1
計		12	15	27	7
評価の基準と方法	<p>出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。</p> <p>出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと</p> <p>研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること</p>				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	9			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		0			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
建築	工務店 住宅メーカー 建築士 福井県職員	9			
背景と目的	伐採、搬出された原木がどのように加工、利用されているかを木材の主用途である木造建築を通して学ぶ。 また、木造建築物にどのような木材が利用されているかを知ることによって保育施業の意義についても再認識する。				
内容	建築士などによる木造建築物の施工例や木造住宅の構造についての講義および施工中の住宅等の見学を実施する。				
到達目標	伐採、搬出された原木がどのような用途で使用されているかを理解する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
木造建築物	木造建築物での使用方法や住宅の構造について学ぶ	3	0	3	1
木造住宅	木造建築物や施工中の住宅等を見学し、使用されている木材について学ぶ	0	6	6	1
	計	3	6	9	2
評価の基準と方法	出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。 出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと 研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること 習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	6			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		0			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
森林保護	学識経験者 福井県職員 外	9			
背景と目的	健全な森づくりのためには、獣害や病虫害などによる森林被害を軽減する必要がある。そのための森林被害の現状や防除方法について理解を深める。 また、樹木の病気の種類や発生原因を学ぶことで現場において簡単な樹木の診断と適切な防除方法が選択できる技能を習得する。				
内容	県職員などによる獣害、病虫害により森林被害の現状や防除方法に関する講義および学識経験者による樹木の病気種類やメカニズムに関する講義を実施する。				
到達目標	獣害や病虫害による森林被害の現状や防除方法について理解する。また、樹木の病気についても学び代表的な病気の簡単な診断ができ適切な防除方法を選択できる技能を習得する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
森林保護	獣害や病虫害による森林被害の現状や防除方法、樹木の病気の種類や発生原因を学ぶ	9	0	9	2
	計	9	0	9	2
評価の基準と方法	出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。 出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと 研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること 習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		0			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
公有林	森林管理署職員 水源林整備事務所職員 福井県職員 外	6			
背景と目的	福井県の森林面積の3割近くを占める国有林や県有林、旧公団造林※などの成り立ちや現状、役割について理解を深める。 <small>※国立研究開発法人 森林研究・整備機構「森林整備センター」が土地所有者との分取造林契約に基づき水源林造成事業にて整備および管理を行っている森林</small>				
内容	森林管理署職員、福井県の県有林担当職員等を講師にそれぞれが管理している公有林等に関する講義を実施する。				
到達目標	各種公有林等の成り立ちや現状、役割について理解する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
公有林	国有林や県有林等の現状などを学ぶ	6	0	6	1
	計	6	0	6	1
評価の基準と方法	出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。 出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと 研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること 習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修				
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
	コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修	0			
	UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修	0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
特用林産物	特用林産物生産者 福井県職員 外	12			
背景と目的	シイタケなどの特用林産物について学ぶことで森林において産出される木材以外の林産物等に関する幅広い知識を得る。 また、炭焼きやシイタケ栽培を学ぶことで広葉樹の使用用途についても理解を深める。				
内容	県内で生産されている特用林産物の概要についての講義および特用林産物生産者による原木シイタケ栽培や炭焼きの実習を実施する。				
到達目標	県内で生産されている特用林産物の種類や生産手法を学ぶとともに、生産量や生産技術等に関する現状や課題等を理解する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
特用林産物の生産	シイタケや炭などの特用林産物の生産方法や使用される原木の種類などを学ぶ	6	6	12	2
計		6	6	12	2
評価の基準と方法	出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。 出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと 研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること 習熟度…講義ごとに講師がレポート等で「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること なお、習熟度の評価が「悪い」の場合、補習等を受けること				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修				0
	労働安全(造林・育林)				0
	労働安全(伐木・造材)				0
	労働安全(最新機器の活用)				0
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修				0
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修					0
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修					0
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得				0
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得				0
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得				0

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
現場技術習得	林業実践者 ふくい林業カレッジ職員 外	252			
背景と目的	育苗から素材生産までの森林施業の一連の実習を行い林業就業に必要な基礎的な現場技術を習得する。同時に安全な方法での伐木やかかり木処理についても学ぶことで労働安全に関する知識や安全な作業技術の定着を図る。 また、将来林業分野で普及が予想されるICT技術についても実習を行い技能を習得する。				
内容	県内各地の山林を主な研修フィールドに林業実践者の講師による苗木生産から安全な方法でのチェーンソー伐木・造材などの素材生産に係る実習、刈払機や林業機械の操作実習、ドローンなどのICT技術実習など森林施業全般に関する実習を実施する。				
到達目標	労働安全に配慮した方法で森林施業を行うための幅広い現場技術を習得する。またICT技術などの先端分野についても理解を深める。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
林業種苗	林業用種苗の生産方法について学ぶ	0	17	17	3
造林・育林技術	造林、下刈り、枝打ち、除伐など造林・育林技術を習得する	0	33	33	8
	コンテナ苗の植栽体験および一貫作業システムの現場見学など造林を効率化する技術を習得する	0	6	6	1
伐木・造材・搬出技術	下記の実習を実施する ・伐倒練習丸太固定装置を活用したチェーンソーの基本的な作業動作の実習 ・伐木、造材の工程ごとの基本動作およびかかり木処理などの手法の実習 ・伐木、造材、搬出までの一連の素材生産の実習	0	107	107	22
林業機械操作	林業機械の操作方法について習得する	0	19	19	5
	高性能林業機械の操作方法について習得する	0	12	12	2
森林作業道開設技術	森林作業道の開設技術について学ぶ	0	11	11	2
測量・森林調査・選木	測量や森林調査の手法について学ぶ	0	20	20	4
ICT技術	下記の技術を実習を通して学ぶ ・森林資源情報の取得のためドローン測量の飛行計画策定や現場による飛行、取得したデータの解析などの手法の実習 ・GISを活用した施業計画の作成、管理などの手法の実習	0	21	21	6
山の歩き方	森林施業をするため冬山を中心とした山での歩き方を習得する	0	6	6	1
計		0	252	252	54
評価の基準と方法	出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。 出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと 研修態度…講義ごとに講師が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること 安全技術…安全に伐倒を行うための実技試験を実施する。 なお、実技試験に不合格となった場合は、再度試験を行い、確認するものとする。				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	39			
	労働安全(伐木・造材)	108			
	労働安全(最新機器の活用)	18			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		6			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		21			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	12			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
インターンシップ	林業事業者等インターンシップ受入先	555			
背景と目的	県内林業事業者等へのインターンシップを通して、林業事業者等の仕事内容を知り、林業就業へのイメージを高めるとともにこれまで研修を通して習得した技能を現場で実践できるよう適応力や応用力を身に付ける。				
内容	県内事業者等への2週間程度のインターンシップを5回実施する。				
到達目標	インターンシップを通して林業就業のイメージを高めるとともに実践的な現場技術を習得する。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
インターンシップ[第1回]	林業事業者等での職場体験を通じて実践的な技術を習得	0	112	112	14
インターンシップ[第2回]	林業事業者等での職場体験を通じて実践的な技術を習得	0	120	120	15
インターンシップ[第3回]	林業事業者等での職場体験を通じて実践的な技術を習得	0	120	120	15
インターンシップ[第4回]	林業事業者等での職場体験を通じて実践的な技術を習得	0	120	120	15
インターンシップ[第5回]	林業事業者等での職場体験を通じて実践的な技術を習得	0	80	80	10
インターンシップ報告会	インターンシップでの研修結果の報告会	3	0	3	1
計		3	552	555	70
評価の基準と方法	<p>出席日数および研修態度、習熟度を総合的に評価する。</p> <p>出席日数…研修全体を通じて学則定める所定の研修時間を満たすこと</p> <p>研修態度…インターンシップ受入事業者が「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p> <p>習熟度…研修結果の報告を基に、「良い」、「普通」、「悪い」の3段階で評価し、学則で定める総合評価時までの「良い」、「普通」の割合が9割以上であること</p>				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		0			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
資格取得	林災防 資格取得機関	186			
背景と目的	森林施業に必要な資格を取得することで、就業後すぐに現場作業に従事できる人材を育成する。 また、安全講習を通じて労働安全意識を向上させる。				
内容	林業の現場作業で必要となる各種資格について講習等を受講し、取得する。 <small>※下記記載の時間数は、カリキュラムに基づいた目安であり、実際は各法令に基づいた時間数の講習を実施</small>				
到達目標	原則、指定する全ての資格を取得する。				
講義	内容	時間数※(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
資格取得	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育作業	-	-	6	1
	伐木等の業務に係る特別教育	-	-	12	2
	車両系建設機械運転技能講習	-	-	30	5
	玉掛け技能講習	-	-	18	3
	小型移動式クレーン運転技能講習	-	-	18	3
	走行集材機械の運転の業務に係る特別教育	-	-	12	2
	不整地運搬車運転技能講習	-	-	12	2
	荷役運搬機械等によるはい作業従事者に対する安全教育	-	-	6	1
	機械集材装置の運転業務に係る特別教育	-	-	12	2
	簡易架線集材装置等の運転業務に係る特別教育	-	-	12	2
	伐木等機械の運転の業務に係る特別教育	-	-	12	2
	狩猟免許試験準備講習	-	-	12	2
	フォークリフト運転技能講習	-	-	24	4
計		-	-	186	31
評価の基準と方法	原則、指定する全ての資格を取得する。 なお、研修で行う資格に不合格となった場合は、研修修了までに各自で取得するものとする。				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	18			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修		0			
UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修		0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

ふくい林業カレッジ シラバス

科目	講師候補者	科目時間数(単位:h)			
オリエンテーション等	ふくい林業カレッジ職員 外	27			
背景と目的	各種式典およびオリエンテーションや面談を実施することで研修生のサポートを行う。				
内容	入校式および修了式や入校前のオリエンテーション、研修の各種面談を実施する。				
到達目標	ふくい林業カレッジ生としてふさわしい姿勢や態度等を身につける。				
講義	内容	時間数(単位:h)			実日数 (単位:日)
		座学	実習	計	
オリエンテーション	入校前の手続きおよび準備物等について説明	3	0	3	1
入校式	ふくい林業カレッジ入校式	3	0	3	1
面談	カレッジ職員と研修、インターンシップ、就職先などに関する面談	6	0	6	2
意見交換会	インターンシップ先を選定するため県内林業事業体および修了生との意見交換	6	0	6	2
森の仕事ガイダンス	就職活動および県内事業体の情報収集の一環として、森の仕事ガイダンスへの参加	3	0	3	1
ふりかえり	カレッジ修了後の手続きや研修報告書の作成	3	0	3	1
修了式	ふくい林業カレッジ修了式	3	0	3	1
課外活動等					
計		27	0	27	9
評価の基準と方法	—				
国が指定する 研修内容区分	項目	時間数(単位:h)			
労働安全	労働安全(基本的事項)の研修	0			
	労働安全(造林・育林)	0			
	労働安全(伐木・造材)	0			
	労働安全(最新機器の活用)	0			
マーケットイン	製材工場や住宅メーカーでの研修	0			
	コンテナ苗、低密度植栽及び地域に沿った一貫作業システムについて理解を深め、実践している現場で造林を効率化する技術を学ぶ研修	0			
	UAVを用いた三次元データの取得及び解析による森林資源情報の把握や、GNSS・GIS等による効率的な施業計画の作成・管理等、現地調査等に係る作業負担を軽減し、施業の効率化を行う技術を習得する研修	0			
高性能林業機械	①構造・機能を理解し、保守・部品の交換等の点検・メンテナンスを定期的に行うための知識と技術の習得	0			
	②複数の機械によるシステム作業における安全の知識の習得	0			
	③安全かつ効率的に作業を実施する技術の習得	0			

成績の評価

長期コースの成績評価は、出席時間数、講義毎の研修態度および習熟度、インターンシップ研修における活動状況、資格取得の状況、筆記試験、実技試験を総合的に勘案して行うものとする。

【評価時期】

9月および3月（年2回）

【評価基準】

- (1)出席時間数は、研修全体を通じて1,200時間を超えるものとする。
なお、9月における評価では、研修を欠席した時間数が30時間未満であるものとする。
- (2)講義毎の研修態度および習熟度、インターンシップ研修における活動状況は、「良い」、「普通」、「悪い」で評価し、評価総数のうち「良い・普通」の割合が9割を超えるものとする。
なお、講義毎の評価が「悪い」の場合、補修等を行うものとする。
- (3)資格は、カレッジが指定する資格の原則全てを取得するものとする。
- (4)筆記試験は、100点満点のうち60点以上を合格とし、
不合格となった場合は、再度試験を行い、確認するものとする。
- (5)実技試験は、伐倒技術実技試験チェックリストにより合否を判断するものとし、
不合格となった場合は、再度試験を行い、確認するものとする。

【留意事項】

成績評価の結果、不合格となった場合は、各種補助事業にかかる補助金および研修期間中の資格取得に要した費用に相当する額の返還を求め場合があります。

ふくい林業カレッジシラバス

令和6年3月策定